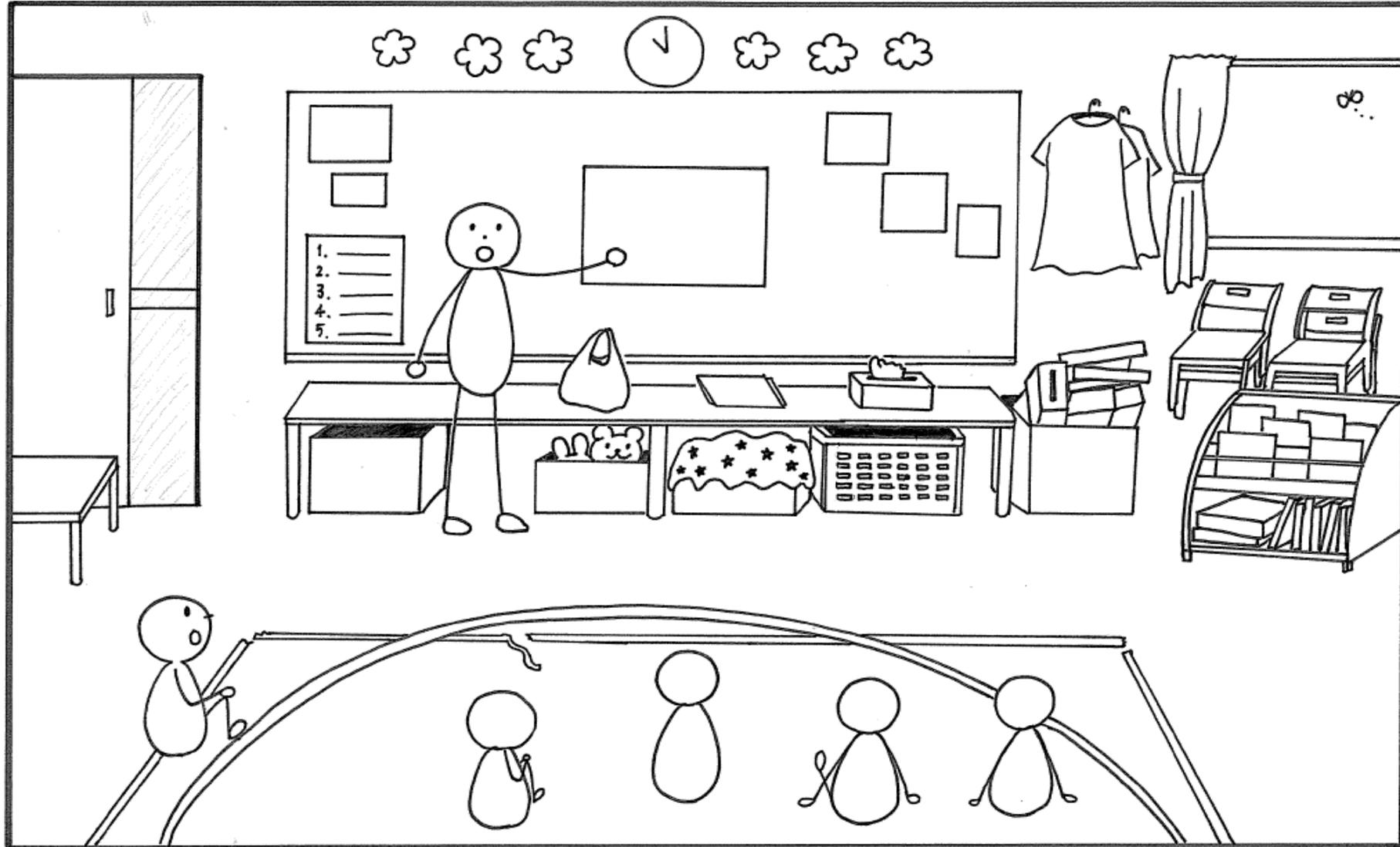
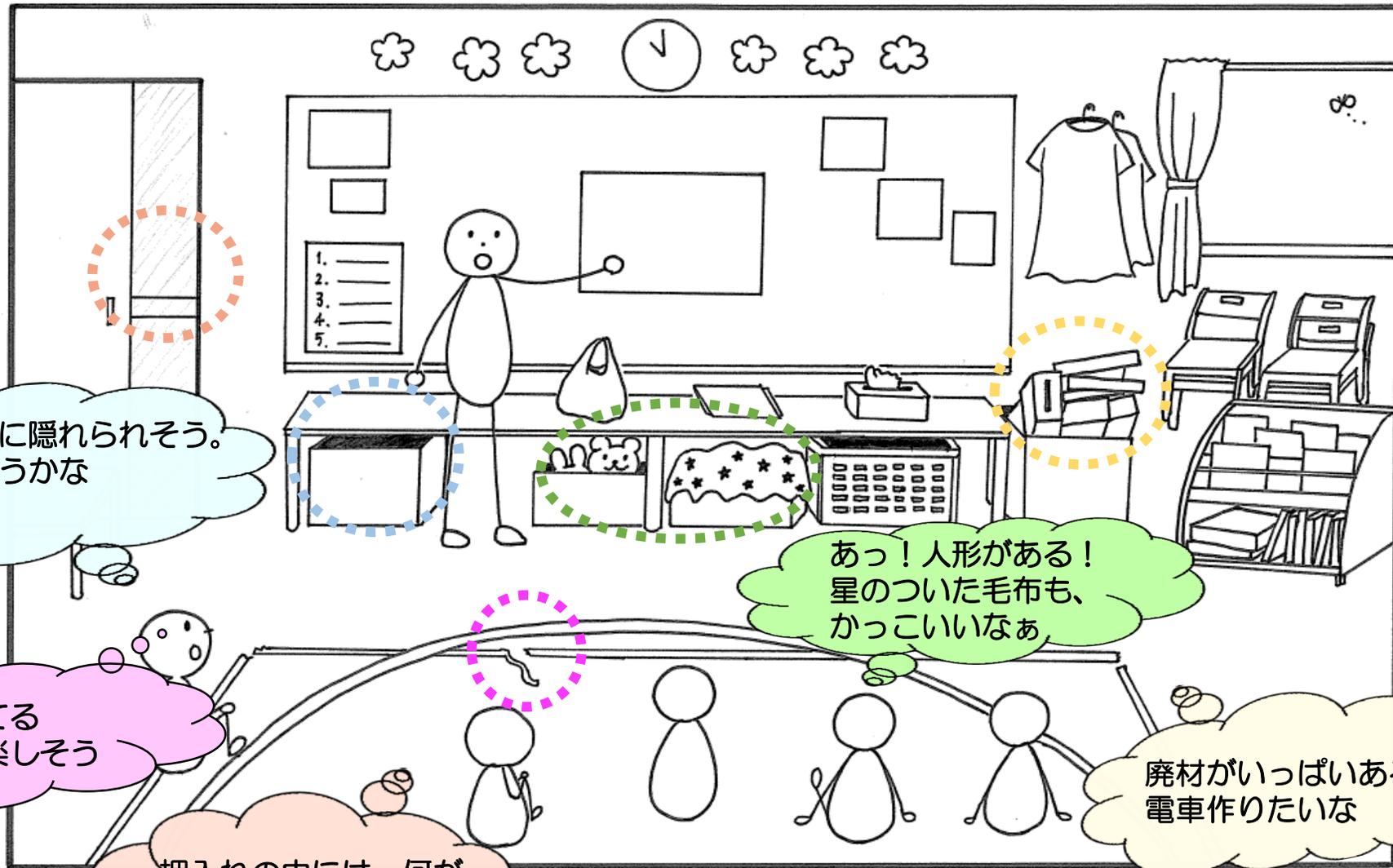


～ある教室のお集まりの様子です～

Q. 子どもたちはどんなことを感じているでしょう。



こんな風に感じている子どもたちがいるかもしれません。



この箱の中に隠れられそう。
入ってみようかな

テープが取れてる
引っ張ったら楽しそう

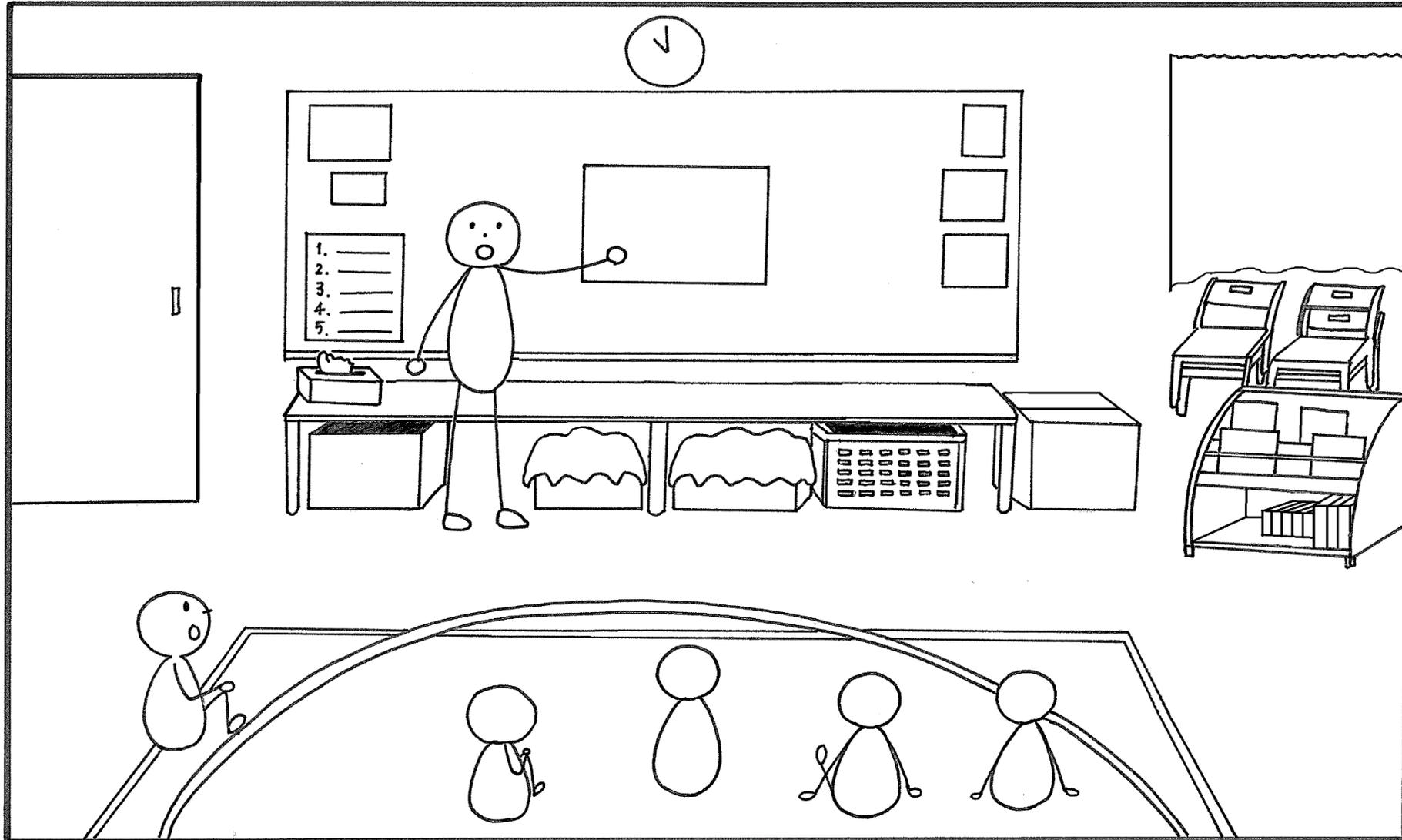
押入れの中には、何が
入っているのかな

あっ！人形がある！
星のついた毛布も、
かっこいいなあ

廃材がいっぱいある！
電車作りたいな

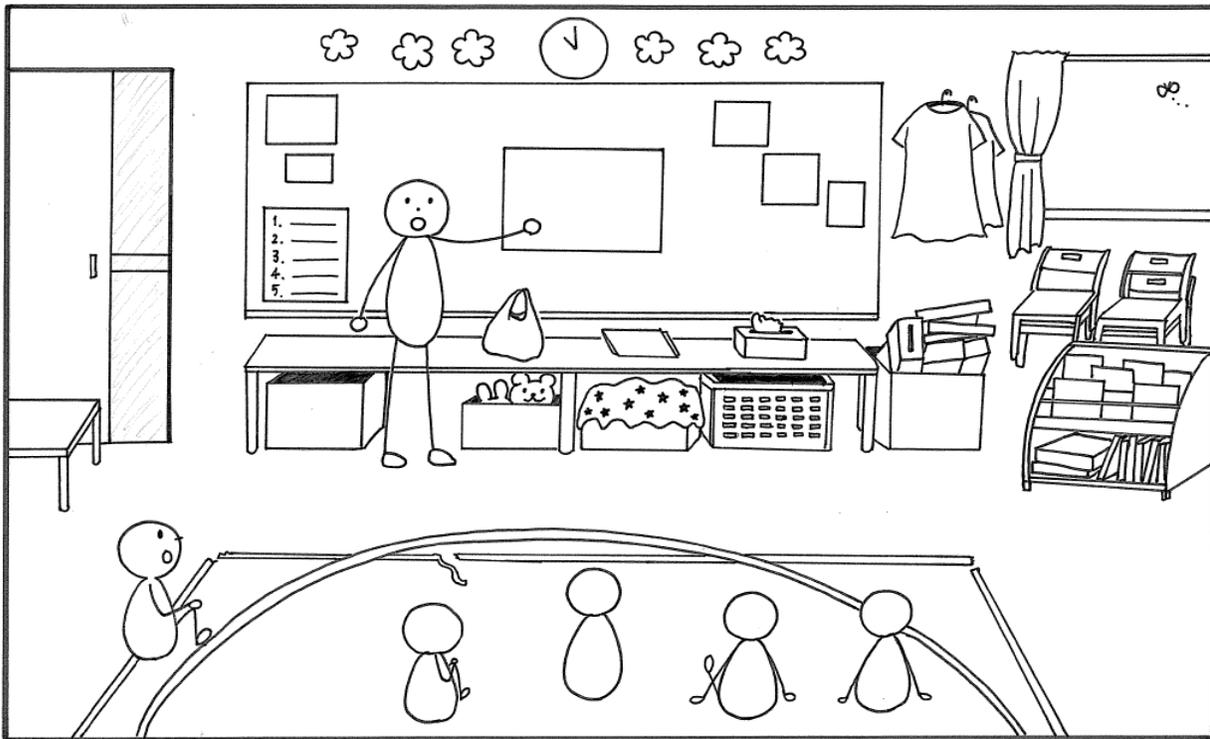
ここでは、これらの子どもたちが気になること・ものを「**刺激**」として話を進めていきます

子どもたちがより集中しやすい環境に整えた部屋の様子です。

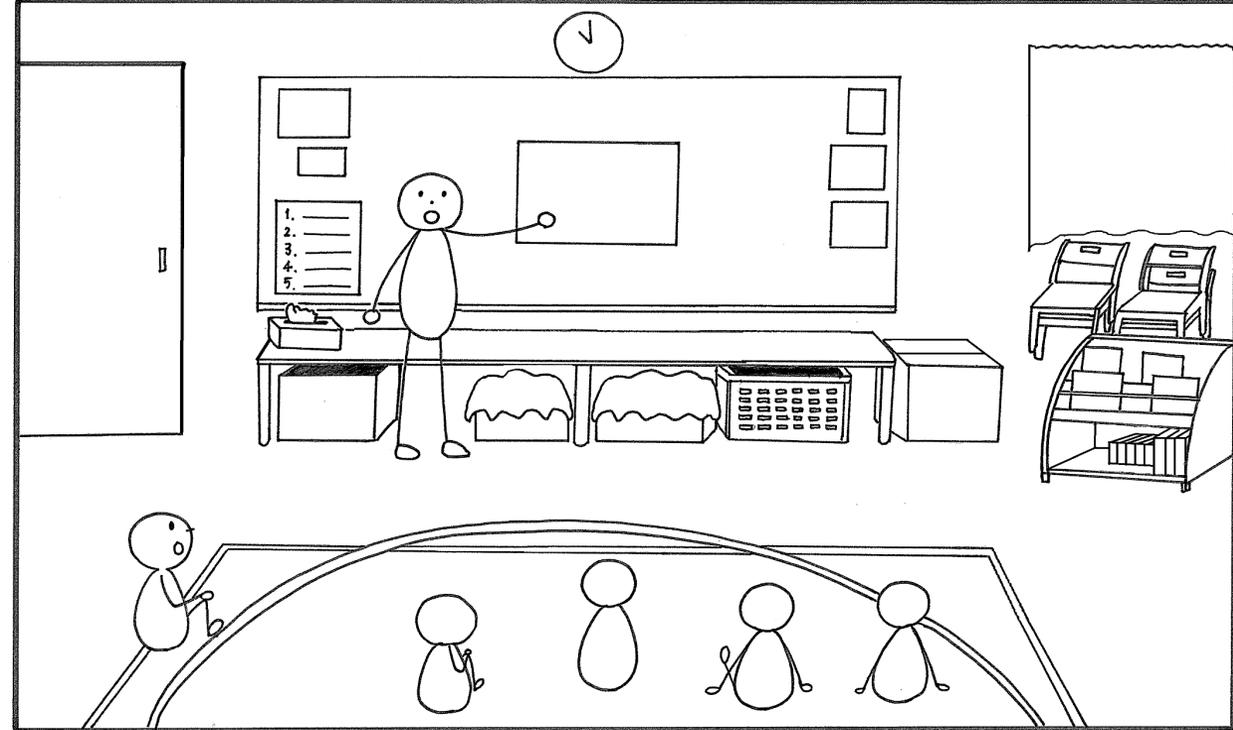


どこが変化したか比べてみましょう。

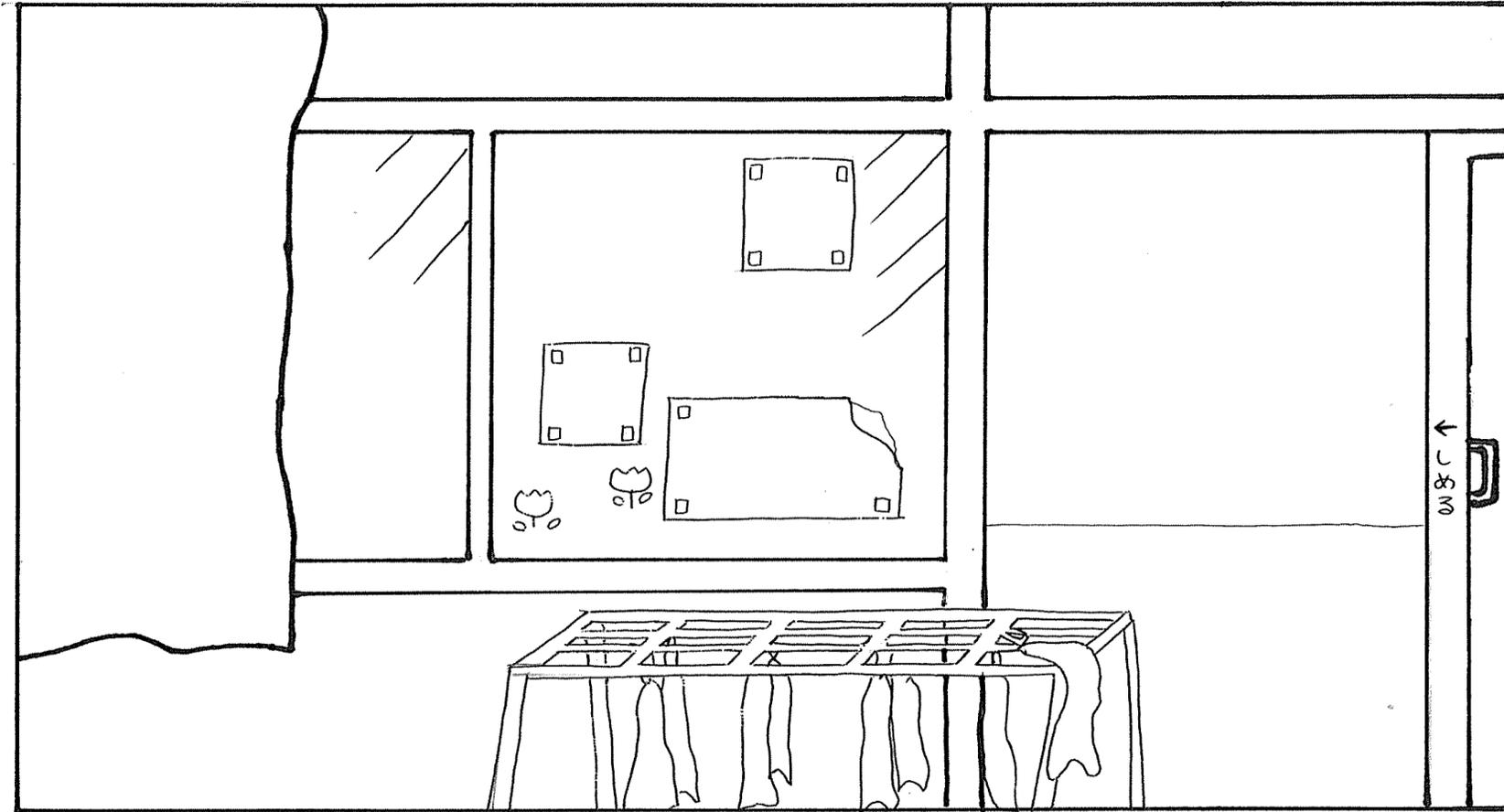
Before



After



この教室ではどんなことが子どもたちの刺激になり得るでしょうか。



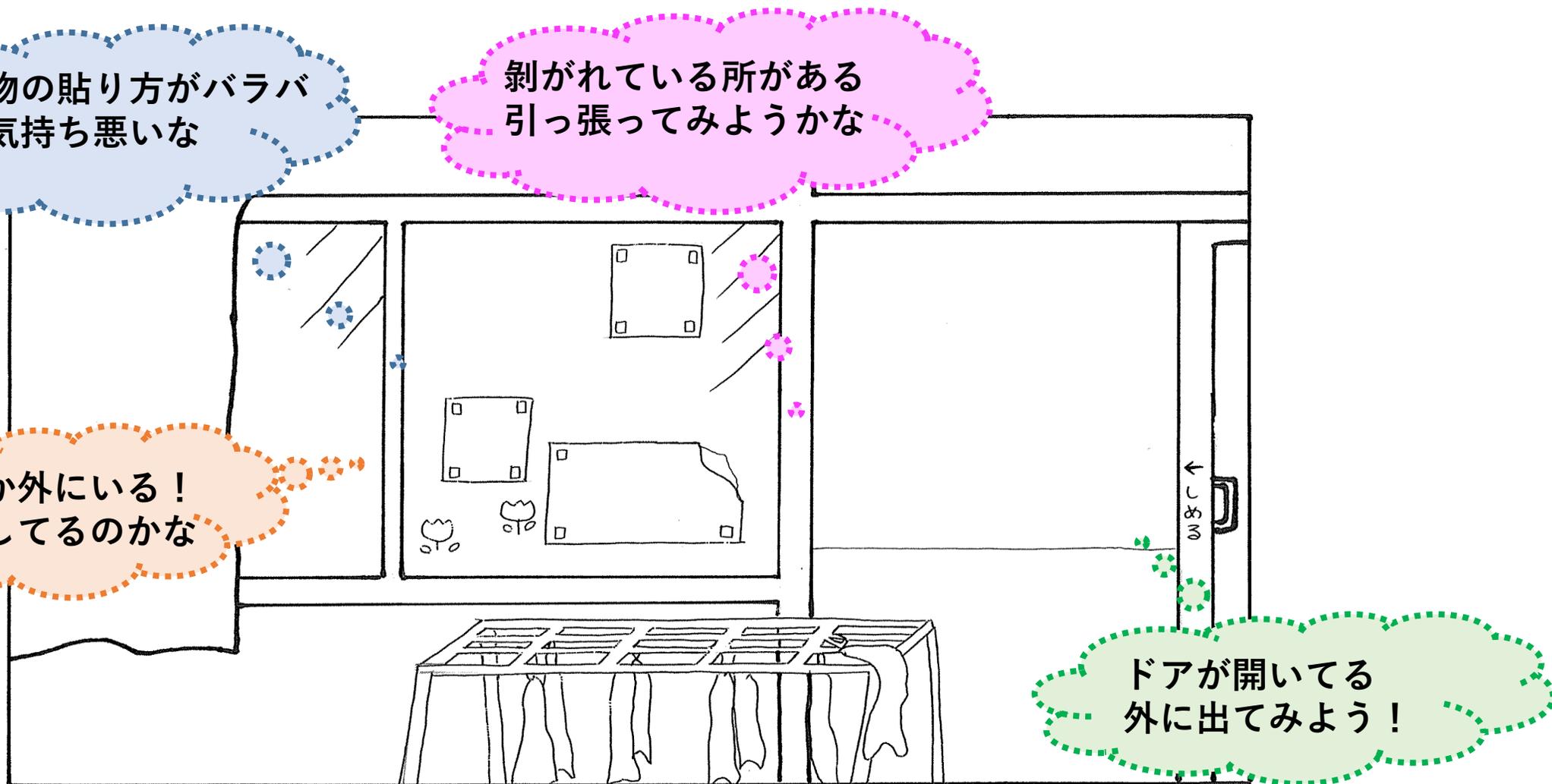
刺激となり得ることは、他にないでしょうか。また、それらの刺激をなくす為に、どんな工夫ができるでしょうか。考えてみましょう。

掲示物の貼り方がバラバラで気持ち悪いな

剥がれている所がある
引っ張ってみようかな

誰か外にいる！
何してるのかな

ドアが開いてる
外に出てみよう！



ところで !!

どうして刺激に配慮する必要があるのでしょうか。

人は普段から、視覚的な情報を手がかりに生活しています。

発達が気になるお子さんには、視覚的に情報を提示することで理解を促すことができる一方、視覚的な情報が**マイナスな刺激**になることがよくあります。

視覚的な情報が**マイナスな刺激**になるのはどうしてでしょう。

次のような特性があることが多いため、**マイナスな刺激**となってしまう。

- 目から入ってくる刺激に過剰に反応しやすい
- 全体ではなく、部分に注目しやすい
- 視覚優位で、具体物に意識が向きやすい

マイナスな刺激によって、どんな状態や行動が見られるでしょう。

例えば次のような様子が見られます。

- 集中できない
- ぼーっとしてしまう
- 何度言われても分からない
- 自分でできない
- 興味のある方へふらーっと行く（離席する）
- 部屋から出ていく
- 急に関係のないことを話し出す

刺激についての配慮が足りず、お子さんの成長や活動への参加を妨げているかもしれません。

環境をつくっている支援者側の工夫が必要です。

環境を整えて、お子さんのよりよい成長を目指しましょう。

〔お子さんのよりよい成長〕

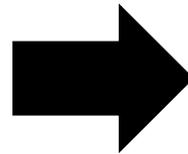
- 自分で理解することができる
- 安心し、落ち着いている
- 注意を向けることができる
- 集中を持続させることができる
- 自分の行動をコントロールすることができる

次のページから、具体的な「刺激の減らし方（環境調整の仕方）」を示していきます。

ポイント

- 目的とする活動へ向かいやすい環境にする
- 必要な情報をキャッチし、理解して見通しを持って行動できる環境にする

どこを見るか分からない

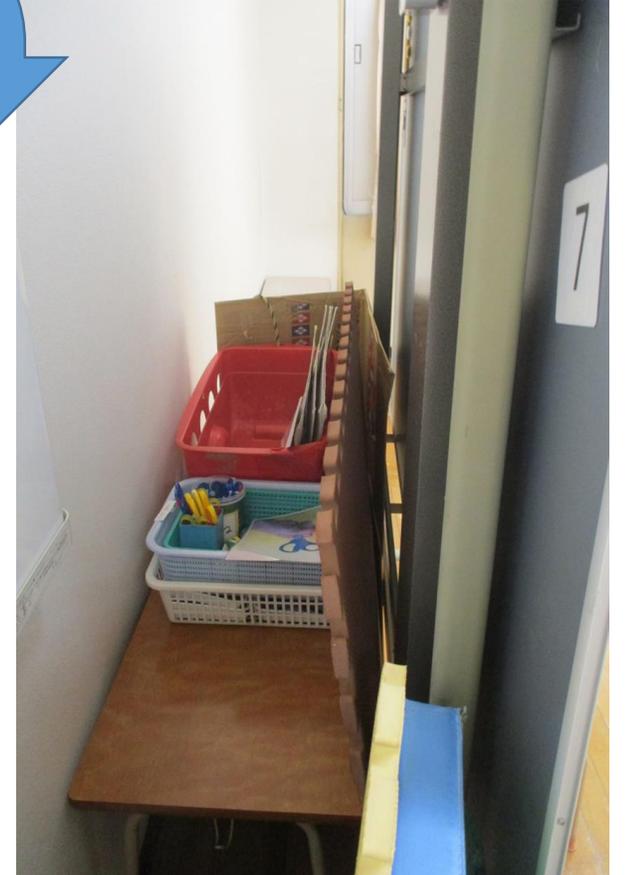


必要なものだけを貼る



活動で使う物、必要な物は・・・？ こんな工夫ができます！！

ホワイトボードの裏側を活用する



気になるものがたくさん



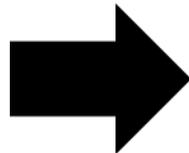
色が派手で気になる



隙間をなくして高さをそろえる



丸見えのおもちゃが気になる



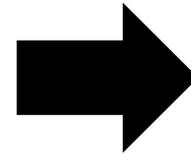
全て布で覆う



隠しきれていない



丸見えの本が気になる



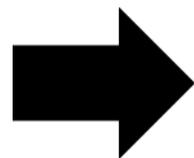
カーテンで隠す



鏡が気になる



棚で遊びたくなる(潜る、上る)

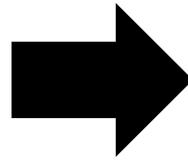


棚全体を隠す



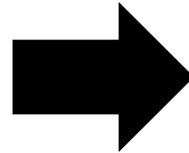
「おもちゃ箱だ!」と
すぐに分かって遊びたくなる

使わない時は
無地の布で隙間なく覆う



テーブルが遊びものになる
(乗る、潜る、周りを走る)

必要ない時は片づける

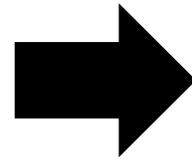


改めて

環境をつくっている支援者側の工夫が大切です。
環境を整えて、お子さんのよりよい成長を目指しましょう。

○目的とする活動へ向かいやすい環境

○必要な情報をキャッチし、理解して見通しを持って行動できる環境



〔お子さんのよりよい成長〕

- 自分で理解することができる
- 安心し、落ち着いている
- 注意を向けることができる
- 集中を持続させることができる
- 自分の行動をコントロールすることができる